

理事寄稿

多様な外国語教育のさらなる推進を目指して

—学習成果の蓄積と可視化の重要性—

Toward further promotion of diverse foreign language education:
The importance of accumulation and visualization of learning outcomes

黒澤 眞爾 KUROSAWA Shinji¹

1. はじめに

JACTFL 発足時より会の活動に参加させていただいている者として、発足 10 年を迎えた JACTFL のこれまでの活動の成果と今後の課題及び可能性について述べさせていただきます。

2. 言語の枠を超えた連携の構築

まずこの間の成果として第一に挙げられるのは、言語の枠を超えた連携（ネットワーク）の構築が為されたことであろう。設立当初、誰もが外国語教育における「英語偏重」に危機感を抱いていた。しかし、各言語に携わる教員は、自己の専門的な領域に留まりがちで、専門言語の枠を超えて、広く外国語教育共通の課題について議論しづらい状況であった。

JACTFL は、この状況を変化させようと、敢えて異なる言語の専門家たちが集まり専門言語以外の領域についても積極的に知識を広め、「英語偏重」に対抗できる外国語教育のモデルとして「複言語教育」「多言語教育」の可能性をイメージ化していた。毎年のシンポジウム開催に加え、会誌の発行、オンラインセミナーの実施など、丁寧な実践活動の結果、言語や職域を横断したネットワークを構築することができた。このネットワークを今後の活動の基盤とし、さらなる発展が期待される。

3. 今後の課題

ネットワークの構築という大きな成果を得ることができたこの 10 年であるが、依然として大きな課題は残っている。JACTFL の活動目的の一つには、「中等教育（特に高等学校）における外国語教育の多様化推進」がある。私も、高校に勤務する教員の

¹ 所属：関東国際高等学校 KANTO International Senior High School

一人であるが、ここ 10 年で「英語偏重」はさらに強まっている感さえある。10 年間で構築したネットワークを活かし、岩盤のごとき横たわる「英語偏重」に対抗し、「多様な言語教育」を実現するため、JACTFL がリーダーシップをとって実践すべき活動とは何だろうか。

多岐にわたる活動が挙げられると思うが、その中でも特に重要とされるのは、多言語・複言語教育の学習成果を可視化し、広く知らしめる活動であると考え。これまでも、高校における様々な外国語教育の実践報告は、数多くなされてきたが、実際の学力の向上といった点で、どのような影響をもたらしているか、もしくは進学や就労にどのような形で繋がっているか、多くの成果データを収集・蓄積し、そのエビデンスを基に「多様な言語教育」の可能性について言及していく必要がある。

このような「多様な言語教育の成果データの蓄積及び公表」は、JACTFL が持っている広範囲なネットワークがあっこそ、実施可能な作業である。学習成果のデータ蓄積は、地道で根気のいる作業であるが、各言語の先生方の協力を得ながら、是非とも進展させていきたいと考えている。

4. 未来に向けて

現在の日本社会は少子化がさらに進み、未来を担う子供たちにどのような教育を提供すべきかという問題は、以前にも増して重要な課題といえる。しかし残念なことに外国語教育に関しては、「英語偏重」に陥る余り、未来を見据えた日本独自の新たな教育の姿を提示できない状態が長く続いている。このような閉塞した状況の中で、JACTFL の活動に寄せられる期待は大きい。